

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書

※整理番号：

企画名
Wood space design in 志和
実施日
平成 29 年 4 月 29 日 (日) ～ 平成 30 年 2 月 19 日 (日)
実施場所
[作業場]おもしろラボ [催し実施場所]ほたる荘、浄蓮寺 etc
企画代表者の氏名、所属
氏名：富田 直樹 所属：工学部
構成員の氏名
富田直樹, 梶川大介, 生田海斗, 冠野雅人, 黒川大樹, 谷川太一, 福島岳大, 神谷友里子, 奥野和希
指導的立場の教員氏名
森拓郎准教授(大学院工学研究科 建築学専攻)
企画の目的及び内容
☐ 目的 1. 交流：他大学の学生や地域住民の交流とそれに伴う志和地区の地域活性化を図る 2. 学び：大学で学ぶ機会の少ない木の材料特性について学ぶ 3. 製作：地域活性化に必要な物を作ると共に工具の使い方等の技術習得 4. 発信：設計製図の授業で学んだプレゼン資料の作り方を活かした地域の魅力発信 以上、本企画を通してより地域と学生のつながりを深くし志和を盛り上げていくことは、今後の東広島のまちづくり活動にも資するものと考えられる。
☐ 内容 1. まるまるまるしえ(志和地区住民有志による志和地区のためのまるしえ)への移動式図書室等のパビリオン設置 2. WS 形式の木工技術取得、それを活かした家具スケールの木工作品の製作、イベント設置 3. 志和地区への理解を深める活動 4. 志和地区ガイドマップ及び各イベント等の宣伝フライヤーの製作
☐ 催し実施日程 1. まるまるまるしえ 2017 (5/14, 6/11, 8/20, 10/9, 11/12, 12/9), 2018 (1/21, 2/19) 2. 木工イベント 2017 (6/3, 6/10), 2018 (2/17) 3. 写真展-しわのいいところみつけた- 2017/10/9-11/4
来場者数
1. まるまるまるしえ：約 100 名/回×8 回=計約 800 名 2. 木工技術の取得、木工作品の製作：計約 30 名 3. 志和地区の理解を深める活動(写真展)：約 50 名
主催・後援団体(外部のコンテスト等に参加する場合は、そのコンテストの規模)
まるまるまるしえの主催：地域交流青空市まるまるまるしえ

活動の内容（準備、広報活動、当日の様子等）

1. まるまるまるしえ

[実施日]

2017（5/14, 6/11, 8/20, 10/9, 11/12, 12/9）, 2018（1/21, 2/19）

[準備及び実施内容]

イベント準備には、広島大学のおもしろラボを利用させて頂いた。内容としては、木の伝統工法や大学で学んだ建築（構造）の知識を活かしたおもちゃによるゲームの実施や想像力を働かせる木の輪作りにより、来場者の方々と体験型イベントを実施した。

[広報]

主に SNS を利用し、2 回目以降のイベントでは口こみによる効果が非常に大きかった。これは、地域住民が主催のイベントであり、ターゲットも志和地区の住民が主な対象であったことが理由と考える。また、イベントは、雨天等の理由を除き計 8 回実施したがこの 8 回共に安定した来場者を確保出来たことは、今後も地域イベントをやっていく必要性があることを示している。

2. 木イベント

[実施日]

2017（6/3, 6/10）, 2018（2/17）

[準備及び実施内容]

木イベントでは、親子向けの家具作りや未就学児の教育玩具遊び等を主に行なった。家具作りでは、依頼者からの要望の聞き取り、図面や模型を通しての製作物のチェックを行なった。家具作成時には、依頼者の保護者の方と一緒に家具を作った。その後、修正要望も聞きながらより依頼者の理想とする家具作りを行なった。

[広報]

1. のまるまるまるしえの活動実施日にチラシ等を用いて宣伝した。また、イベント来場者からの紹介で直接依頼を受けることもあり、このことから定期的なイベントの実施は重要であるといえる。

3. 写真展-しわのいいとこみつけた-

[実施日]

2017/10/9-11/4

[準備及び実施内容]

準備は、メンバーが写真部であることから写真部有志のメンバーと協力し写真の撮影、展示方法等を検討した。実施内容は、約 1 ヶ月にわたり志和地区で写真の展示を行なった。展示方法を仮設性の高いものにする事で展示会場を変えても十分な対応が出来た。

[広報]

広報は、ポスターやラジオを上手く活用することで志和地区の住民の方は勿論のこと広島大学の学生や地域外の方にも来場して頂く事が出来た。

*活動準備日は 2017/4/29-2018/2/17 までに活動毎、適宜実施した。

（裏面に続く）

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書 (裏面)

アンケートの結果（来場者にアンケートを実施した場合のみ）

□木工イベント

- ・子どもが今回作った家具のおかげで毎日座って食事やお絵かきをするようになった。
- ・家具作成後のアフターフォローは、助かった。

□写真展-しわのいいとこみつけた-

- ・また、開催して欲しい。
- ・志和の魅力を見つけることが出来た。
- ・会場の雰囲気と写真が合っていた。etc.

成果・課題

本企画は、志和で主に3つの活動を行った。まるまるまるしえでは、地域住民との交流を図りながら多くの方に建築の技術を活かした木のおもしろさや難しさを知ってもらうことが出来た。主催者からは、今後も継続した活動の依頼を受けておりこの一年間の活動の成果の一つと言える。また、木工イベントでは志和出身の方が私たちの活動を知ってくれ、わざわざ依頼して来て下さる場面もあった。家具作成後に家具を使う子どもが満面の笑みでありがとうと言ってくれたときは、非常に嬉しくもあり私たちの活動の重要性を再確認した。写真展では、志和に在住の方が展示写真や方法を見て「この場所は、〇〇さんちがあったとこで～懐かしい～」のように地元に残念を馳せていた。写真展を始めるまでは、不安が大きかったがアンケートの結果や来場者の様子を見て多くの方が楽しんでた。また、イベントの準備を通して企画メンバー自信、志和の魅力や地域の抱える課題に触れることが出来、良い経験となった。

また、本年度の企画は、活動を行っていく上で当初以上の活動を実施したため広報費の削減が大きく、紙面による宣伝があまり行なえなかった。勿論、臨機応変な対応を通じた活動の拡大は大きな成果であるが、より多くの方に活動を認知して頂く事が出来なかったのは心残りである。

実施風景（写真）

活動の主な写真を以下に示す。



木工イベントで遊ぶ子ども



写真展展示台製作の様子



まるしえの様子1



製作した家具を使う子どもたち



写真展の様子



まるしえの様子2

【提出方法】 指定された期限までに本紙を作成の上、電子ファイルで提出してください。

E-mail でも受け付けます。

【提出先】 工学部学生支援室 (kou-gaku-gakubu@office.hiroshima-u.ac.jp)